

日本女子スポーツの夜明け ―人見絹枝―

ひとみきぬえ

「やった！きつとみんなも、よろこんでくれるにちがいない。」

十六才の絹枝は、岡山県女子体育大会の走りはばとびで、四メートル六十七センチメートルという当時の日本最高記録を出し優勝しました。

しかし、喜んだのもつかの間でした。

「あんなに走ってどうするんだ。」

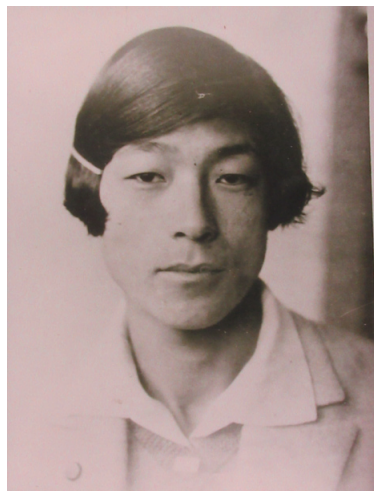
「女性^{じよせい}が人前で足を出して走るなんて、とんでもない。」

こんなかけ口を言う人が多くいたのです。女性はあるべきだという考えの強い時代でした。

（だれからも文句^{もんく}を言われず、女性が堂々とスポーツをできるようになればいいのに。きつと、そう願っている女性が私のほかにもいるはず。）

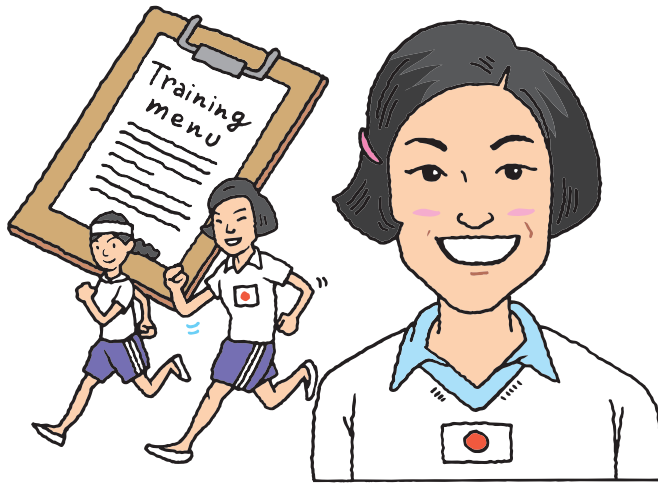
絹枝はそう思いながら、黙々^{もくもく}と練習を続けていました。

その後、絹枝は二階堂^{にかいどう}体操塾^{たいそうじゆく}（今の日本女子体育大学）に入学しました。そして、国内の大会に出場し、次々と当時の世界記録を更新^{こうしん}して、世間^{せけん}から注目されるようになったのです。



人見絹枝 岡山市立福浜小学校提供

十九才で大阪毎日新聞社に入社した絹枝は、記者としていそがしく働きました。「日本の女子スポーツを少しでもさかんにする。だれもがのびのびとスポーツを楽しめるようにする。」という夢に向かい、仕事が終わると一人グラウンドで黙々と走るのです。絹枝は今まで以上に練習にはげみました。



ヨーテボリでの国際女子競技大会に、絹枝は日本人としてただ一人出場しました。走りはばとびで五メートル五十センチメートルの世界記録を出し、立ちのはばとびでも二メートル四十七センチメートルの記録を出して優勝しました。

そのとき、絹枝は大切なことに気付きました。

（世界の女子選手は、一年を通じてトレーニングを考え組み立てている。トレーニングの大切さを日本の女子選手に知らせたい。そうすれば、競技力がもっと向上して活躍する人がふえるはずだ。）

絹枝は、夢に向かって心をおどらせました。

それから、絹枝は仲間といっしょにますます練習にはげみ女子スポーツの発展のためにがんばりました。また、この海外遠征での経験や見たり聞いたりしたことを記事に書き、世界の女子スポーツの様子を日本の人々に紹介しました。日本の女子

スポーツ選手が強くなるために、絹枝は、動き始めたのです。

ところが、絹枝の思いとはうらはらに、日本国内での女子スポーツへの風当たりは強いままでした。岡山の実家にも、心ない手紙が送りつけられました。これまでの絹枝の努力が、がらがらと音を立ててくずれていくような内容でした。

（どうして、どうして、分かってもらえないのか…。）

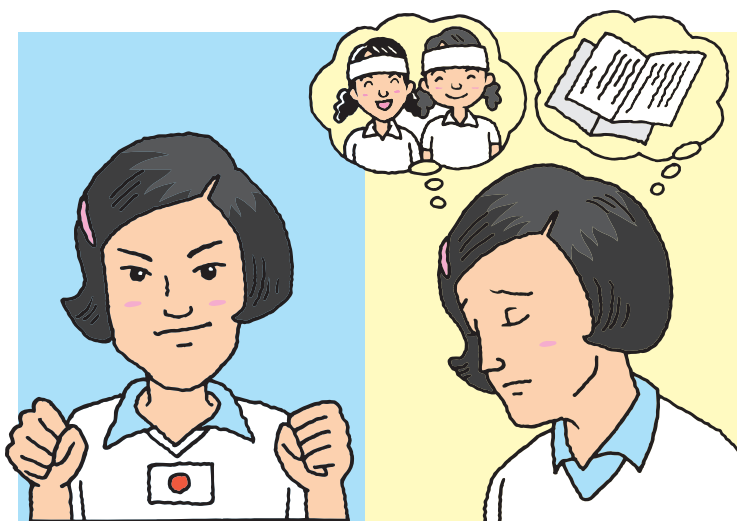
にぎりしめたこぶしに、力が入ります。

絹枝の心に、これまでの日々がよみがえってきました。夢を実現させるため、つらい練習にたえ、いっしょに汗を流した仲間の笑顔。記録が少しでものびると、かたをだき合い自分のことのように喜び合った仲間の歓声。自分や仲間の遠征費用を集めるためいろいろな人に頭を下げて回ったこと…。

（これまでしてきたことは、一体何のためだったのか。すべてがむだなことだったのだろうか。）

どれくらい時間が経ったでしょう。固く結んだ絹枝の口が、ゆっくりと開きました。

「夢を実現するために、どんなことを言われても私はくじけない。」



その後、二十一才になった絹枝はアムステルダムオリンピックに、日本の女性として初めて出場しました。苦しい試合でした。金メダルは確実とだれもが信じてうたがわなかった百メートルで敗れてしまったのです。しかし、八百メートルに出場し、日本の女子スポーツ選手初のオリンピック銀メダリストとなりました。

二年後、プラハで行われた世界女子オリンピック大会で、絹枝は団長・コーチ・選手としてのぞみました。国旗をかけた入場する絹枝の後ろには、五人の若い日本女子選手が続いていました。絹枝の顔は晴れ晴れとかがやいていました。おねをはり、前をしっかりと見つめ、一步一步ふみしめながら歩く絹枝のすがたがそこにはありました。絹枝の思いえがいていた夢が、少しずつ現実のすがたとしてあらわれるようになってきたのです。

しかし、その一年後、絹枝は二十四才というわかさでなくなります。

けれども、絹枝の夢は、日本の女子選手たちに引きつがれていきました。一九九二年のバルセロナオリンピックでは、絹枝以来、女子の陸上競技において岡山県出身の有森裕子選手が銀メダルを獲得しました。水泳、バレー、サッカー、様々なスポーツにおいて、数多くの日本女子選手が、活躍できる時代がやってきたのです。

1 主題名 困難に立ち向かう強さ

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、A 希望と勇気、努力と強い意志「より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」である。自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることに関する内容項目である。児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。また、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く態度を養いたい。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、先人や著名人の生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりする時期であると言われる。一方、自分自身に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。このような時期だからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、自己の向上のためにより高い目標を設定し、その達成を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志と実行力を育てる必要がある。人見絹枝の生き方にふれ希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、児童の中により積極的で前向きな自己像が形成されるようにしていきたい。

(3) 教材について

日本人女性として初めてオリンピックに出場した郷土の偉人、人見絹枝の話である。絹枝は、自ら陸上競技で世界記録を出すだけでなく、日本の女子選手を育てるために努力を重ねる。当時の日本の時代背景を考えると、絹枝の夢の実現への道のりは相当厳しいものだったことが想像できる。心が折れてくじけそうになった、人間らしい心の弱さに十分共感させながら、それでもやり抜いた絹枝の意志の強さを感じ取らせたい。

◇板書例

○目標をもって強い気持ちで取り組んできたこと	◇強い意志を持ち、いつも前向きに取り組もうとする気持ちが大切。	国旗を掲げて入場したとき ・私の夢がついにかなった。 ・あきらめなくてよかった。	心ない手紙を読んだとき ・分かってもらえなくて悲しい。 ・仲間のためにもくじけるわけにはいかない。 ・どうしても女子スポーツをさかんにしたい。 ・これが私の使命なんだ。あきらめなければ、絶対になえられる。	絹枝の 写真	日本女子スポーツの夜明け ―人見絹枝―	自分の夢や目標 ・水泳の大会で入賞したい。 ・将来の夢に向かって今からできることをしている。 めあて 夢をかなえるために大切な気持ちは何か見つけよう。
------------------------	---------------------------------	--	--	-----------	------------------------	---

◇参考

人見絹枝（1907～1931年）。岡山県出身の女子陸上競技選手。岡山高等女学校を経て、1925年、二階堂体操女塾（現 日本女子体育大学）卒業。不世出のスプリンターといわれ、日本の女子陸上競技の向上に貢献した。

3 ねらい

夢をかなえるために大切なのはどんな気持ちかを考える中で、強い意志をもち常に前向きに取り組んでいこうとする気持ちが大切なことに気づき、困難があっても自分の夢や目標に向かってくじけずに努力していこうとする心情を育てる。

4 展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 自分の夢や目標について考え、めあてをつかむ。	<p>○ みなさんはどんな夢や目標がありますか。また、そのために努力をしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳の大会で入賞したい。 ・自分の将来の夢に向かって頑張っている。 <p>○ 女子スポーツ選手が活躍する世の中を目指し貢献した、人見絹枝という人を知っていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢や目標に向けて取り組んできたことを想起することで価値への方向付けをする。 ・女子スポーツ選手が多く活躍する今の状況を知らせ絹枝の生き方への関心を高める。
夢をかなえるために大切な気持ちは何か見付けよう。		
2 「日本女子スポーツの夜明けー人見絹枝ー」を読んで話し合う。	<p>○ 心に残ったことはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人にあれだけ言われても練習を続けてすごい。 ・女子がオリンピックに出るのが困難な中で走り続けた精神力がすごい人だ。 <p>◎ 心ない手紙を読みながら絹枝はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かってもらえなくて悲しい。 ・仲間のためにくじけるわけにはいかない。 ・どうしても女子スポーツを盛んにしたい。 ・これが私の使命なんだ。あきらめなければ絶対にかなえられる。 <p>○ 国旗を掲げて入場した絹枝はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の夢がついにかなった。 ・あきらめなくてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残ったことを話し合う中で、中心場面の絹枝の気持ちに目が向くようにする。 ・ワークシートに書くことで、夢に向かい頑張る絹枝の気持ちや、その努力を分かってもらえない悔しさなどを、多面的に考えられるようにする。 ・「絹枝は、どうして頑張れたのか。」と問うことで、女子スポーツ振興を成し遂げようとする強い気持ちに気付くようにする。 ・後輩を引き連れて入場することができたときの絹枝の気持ちを考えて話し合うことで、絹枝の喜びを感じ取ることができるようにする。
強い意志をもち、いつも前向きに取り組もうとする気持ちが大切だな。		
3 目標に向かって自分が努力してきたことについて振り返る。	<p>○ 今まで、夢や目標に向かって強い気持ちで取り組んできたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳や陸上練習で苦しくても頑張った。 ・投げ出したい時もあったが、目標を達成するためにふんばった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分を振り返りワークシートに書くことで、夢や目標に力強く向かっていこうとする気持ちを高める。
4 教師の話を聞く。	<p>○ 自分の夢に向かって前向きに頑張っている人がいます。その人のことを話します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説話により、夢に向かって強い意志をもち前向きに取り組んでいくことの大切さに気付くことができるようにする。
自分も夢や目標に向かって強い気持ちをもって前向きに努力していきたいな。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢や目標に向かって強い意志をもち前向きに取り組んでいくことの大切さに気付くことができたか。 ・自分の夢や目標に向かって強い気持ちをもち前向きに努力していこうとする意欲を高めることができたか。 	

5 他教科との関連

体育科の水泳や陸上などにめあてをもって取り組み、振り返りを行う。

日本女子スポーツの夜明け — 人見絹枝 —

5年（ ）組（ ）

○心ない手紙を読みながら、絹枝はどんなことを思ったでしょう。



--	--	--	--	--	--	--

○今まで夢や目標に向かって強い気持ちで取り組んできたことを書き
ましょう。

--	--	--	--